

高齢者用肺炎球菌ワクチン予防接種を受ける方へ

1. 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

2. 肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌には 93 種類の血清型があり、平成 26 年 10 月からの定期接種で使用される「ニューモバックス NP(23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン)」は、そのうちの 23 種類の血清型に効果があります。また、この 23 種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めるという研究結果があり、健康な人では少なくとも接種後5年間は効果が持続するとされています。

3. 予防接種を受けるときの注意

- (1) 予診票は、接種の適否を判断する重要な手掛かりとなります。身体の状態を確認し、責任をもって記入し、接種する医師に正しい情報を提供しましょう。
- (2) わからないことや疑問なことなどは、かかりつけの医師に相談しておきましょう。
- (3) 当日は体調をよく観察し、普段と変化がないか観察しましょう。

4. 予防接種を受けることができない人

次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはいけません。

- (1) 明らかに発熱している人(37.5度以上)
 - (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
 - (3) このワクチンの成分、または他の薬品等によって過去に重いアレルギー症状(アナフィラキシーショック)を起こしたことがある人は、接種前に医師にその旨をよく伝え、指示に従ってください。
 - (4) その他、予防接種を受けることが医師により不相当と判断された人
- ※具体的には医師とよく相談してください。

5. 予防接種を受けるに際し、医師によく相談しなければならない人

健康状態及び体質について、次のいずれかに該当すると思われる場合、接種前に必ず医師とよく相談してください。

- (1) 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などを有する人
- (2) 過去の予防接種後、2日以内に発熱のみられた人又は発疹・じんましん等のアレルギーを疑う症状がみられた人
- (3) 過去にけいれん(ひきつけ)の既往のある人
- (4) 過去に検査によって免疫状態の異常を指摘されたことのある人

◎ 予防接種を受けた後の注意

- 接種後30分は、ショックやアナフィラキシーが起こることがありますので、医師とすぐ連絡を取れるようにしておきましょう。
- 接種後に高熱やけいれんなどが起きた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、腫れが目立つときや気分が悪いときには、医師にご相談ください。
- このワクチンの接種後、違うワクチンを接種する場合には、6日以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンはほかのワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、注射した部分をこすることはやめましょう。
- 接種当日は、激しい運動は避けて、いつも通りの生活をしましょう。